

鹿庭なほ子:「生物薬剤学, バイオアベイラビリティと生物学的同索性」, 林 正弘, 谷川原祐介編, 南江堂, 東京, (2000) Cpp. 59-68

Carpenter, J.F.^{*1}, Izutsu, K., Randolph, T.W.^{*2}: “Freezing and Drying-Induced Perturbations of Protein Structure and Mechanisms of Protein Protection by Stabilizing Additives.” In Freeze-drying/Lyophilization of Pharmaceutical and Biological Products. eds, Rey, L., May, J.C., Marcel Dekker, New York, 1999, pp.123-160

^{*1} University of Colorado Health Sciences Center

^{*2} Department of Chemical Engineering, University of Colorado

S. Yoshioka and V.J. Stella^{*1}: Stability of Drugs and Dosage Forms Kluwer Academic/Plenum Publishers, New York, 2000.

^{*1} University of Kansas

早川堯夫: “新薬開発評価の基礎と臨床”, バイオテクノロジー製剤の特徴と品質上のポイント, 新薬開発評価の基礎と臨床研究会編, デジタルプレス, 東京 (2001) pp.411-442

早川堯夫: “バイオ医薬品の品質・安全性評価”, 細胞基材の品質・安全性評価, 早川堯夫, 山崎修道, 延原正弘編, エル・アイ・シー, 東京 (2001) pp.33-49

早川堯夫: “バイオ医薬品の品質・安全性評価”, 感染症物質概論, 早川堯夫, 山崎修道, 延原正弘編, エル・アイ・シー, 東京 (2001) pp.101-122

早川堯夫: “バイオ医薬品の品質・安全性評価”, 製品の特性解析・品質規格, 安定性及びComparability, 早川堯夫, 山崎修道, 延原正弘編, エル・アイ・シー, 東京 (2001) pp.205-230

早川堯夫: “バイオ医薬品の品質・安全性評価”, 細胞・組織利用医薬品等の品質・安全性の確保, 早川堯夫, 山崎修道, 延原正弘編, エル・アイ・シー, 東京 (2001) pp.397-419

早川堯夫: “バイオ医薬品の品質・安全性評価”, 遺伝子治療用医薬品の品質, 安全性等の確保, 早川堯夫, 山崎修道, 延原正弘編, エル・アイ・シー, 東京 (2001) pp.341-350

川崎ナナ, 早川堯夫: “バイオ医薬品の品質・安全性評価”, 糖鎖構造解析, 早川堯夫, 山崎修道, 延原正弘編, エル・アイ・シー, 東京 (2001) pp.255-284

川西 徹: “基礎生化学実験法第2巻”, 共焦点顕微鏡, 日本生化学会編, 東京化学同人, 東京 (2000) pp.205-218

川西 徹, 篠内桃子, 高仲 正: “生物薬科学実験講座第15巻”, ラジオアイソトープを用いた薬物酸化酵素活性測定法, 鎌滝哲也監修, 廣川書店, 東京 (2001) pp.102-114

Hisamitsu, T., Ohata, H., Kawanishi, T., Iwamoto, T., Shigekawa, M., Amano, H., Yamada, S., Momose, K.: “Control and Diseases of Sodium Dependent Transport Proteins and Ion Channels”,

Functional coupling of Na⁺/Ca²⁺ exchange with Ca²⁺ release from intraelloular stores in cultured cells from guinea pig ileum., ed. Suketa, Y., Carafoli, E., Lazdunski, M., Mikoshiba, K., Yamada, Y. and Wright, E.M., Elsevier, Netherland (2000) pp.93-94

Uchida E., Hayakawa T.: “Quality and safety evaluation of gene therapy products in Japan”, Gene Therapeutic Agents - Past, Present, and Future, The 4th annual KFDA international symposium, ed. Korea Food and Drug Administration, Seoul (2000) pp. 5-15

水口裕之, 早川堯夫: “バイオ医薬品の品質・安全性評価”, アデノウイルスベクター, 早川堯夫, 山崎修道, 延原正弘編, エル・アイ・シー, 東京 (2001) pp.383-393

猪狩康孝・菊地寛・高倉喜信・水口裕之・奥平和穂(司会): “ファルマシア”, DDSと夢, 日本薬学会編, 東京 (2001) pp.369-374

佐竹元吉, 関田節子: 新訂版 GMP微生物試験法「生薬の微生物試験」, 川村邦夫, 佐々木次雄, 棚元憲一編, 講談社サイエンティフィック (2001), pp. 286-302

新谷英晴: “有害微生物管理技術第1巻”, 医療用具の滅菌保証の意義, 実際問題点ならびに使用者への指針, 芝崎 勲監修, フジテクノシステム, 東京 (2000), pp.1096-1191

松村年郎: “室内空気清浄便覧”, 日本空気清浄協会編, オーム社, 東京 (2000) pp.81-92

松村年郎: “21世紀のいのちと環境シリーズ・室内環境をとりまく最近の動向”, 健康事業総合財団, 東京 (2000) pp.18-33, 48-62

尾澤達也他: “化粧品の有用性一評価技術の進歩と将来展望”, 武田克之, 原田昭太郎, 安藤正典監修, 日本化粧品技術者会編集, 薬事日報社, 東京 (2001)

佐々木久美子, 松田りえ子, 根本 了: “FDA 残留農薬分析マニュアル”, PAM日本語版編集委員会訳, 中央法規, 東京 (2000) pp.3-26

佐々木久美子: “衛生試験法・注解 2000”, 日本薬学会編, 金原出版, 東京 (2000) pp.423-435

宮原 誠, 田辺寛子, 後藤典子: “照射食品の世界の現状と検知法”, 東京都立産業技術研究所編集, 東京都立産業技術研究所, 東京 (2000)

石綿 肇: “新食品分析ハンドブック”, 菅原龍幸, 前川昭男監修, 建帛社, 東京 (2000) pp.192-193, pp.552-556

石綿 肇: “新版介護福祉士養成講座 8 家政学概論”, 福祉士養成講座編集委員会編, 中央法規, 東京 (2001) pp.113-118

- 石綿 肇：“あなたが食べている食品添加物 本編版”，食品添加物研究会編，日本食品添加物協会，東京（2001）
- 石綿 肇：“あなたが食べている食品添加物 総合版”，食品添加物研究会編，日本食品添加物協会，東京（2001）
- 河村葉子：“新食品分析ハンドブック”，菅原龍幸，前川昭男監修，建帛社，東京（2000）pp.497-499
- 丹野雅幸，宮田直樹：“NOドナー”，生体内一酸化窒素(NO)実験プロトコール，共立出版，東京（2000）pp 13～33
- 最上（西巻）知子，横山信治：“基礎生化学実験法 第5巻 脂質・糖質・複合糖質”，基礎生化学実験法 編集委員会編集，東京化学同人，東京（2000），pp33-35, pp35-36
- 小沼博隆：“HACCP：衛生管理計画の作成と実践 清涼飲料水実践編”，清涼飲用水に有害な微生物と異物，厚生省生活衛生局監修，中央法規，東京（2000）pp.50-75
- 小沼博隆：“調理業のHACCP”，食品衛生協会，東京（2000）pp1-32
- 小沼博隆：“HACCPマニュアル総論編”食品産業センター，第3章HACCPシステムとは，第4章HACCPシステム導入への作業手順，東京（2000）pp3-37
- 小沼博隆：“食品の低温流通ハンドブック”，第4章調理加工品，丸山 務監修，サイエンスフォーラム，東京（2000）pp.288-300
- 小沼博隆：“発酵乳・乳酸菌飲料中のビフィズス菌の菌数測定法”，全国発酵乳乳酸菌飲料協会，東京（2000）pp.4-7
- 高鳥浩介：“真菌性疾患”，実験動物感染症の対応マニュアル，前島一淑監修，アドスリー出版，東京（2000）pp.227-238
- 高鳥浩介：“微生物の分類と同定 真菌”，川村邦夫・佐々木次男・棚元憲一監修，新改訂版GMP微生物試験法，講談社サイエンティフィック，東京（2000）pp.165-194
- 高鳥浩介：“クリーンルームの運転と維持管理”，(株)日本空気清浄協会編，クリーンルーム環境の施工と維持管理，オーム社，東京（2000）pp.110-115
- 高鳥浩介：“汚染による障害と障害機構 微生物による建物汚染”，(株)日本空気清浄協会編，室内空気清浄便覧，オーム社，東京（2000）pp.53-61
- 高鳥浩介：“カビ制御手法”，芝崎勲監修，有害微生物管理技術，フジテクノシステム，東京（2000）pp.32-41
- 高鳥浩介：“穀物、豆類とその加工品”藤井建夫編，食品微生物Ⅱ食品の保全と微生物，幸書房，東京（2000）pp. 84-96
- 関澤 純，花井荘輔，毛利哲夫：“化学物質の健康リスクアセスメント”，監訳，丸善株式会社，東京（2001）
- Sekizawa J. ed.：“**Concise International Chemical Assessment Document No.27**”，Diphenylmethane diisocyanate (MDI), International Programme on Chemical Safety / World Health Organization, Geneva (2001)
- 関澤 純：“安全性評価と基準”，農薬学事典，朝倉書店，東京（2000）pp. 281-314
- 関澤 純：“第6章 リスク評価の科学と方法”，日本リスク研究会編，リスク学事典，TBSブリタニカ，東京（2000），pp216～219, pp228～231, pp234～235
- 関澤 純：“統合的リスク評価とリスク対応，環境ホルモンの総合的リスク管理”，西日本環境ホルモン研究会編，環境新聞社，東京（2000），pp47～56
- Sekizawa J. ed.：“**Concise International Chemical Assessment Document No.13**”，Triphenyltin Compounds, International Programme on Chemical Safety / World Health Organization, Geneva (1999)
- Kitajima, S., Momma, J. and Inoue, T.：“**Toxicology for the Next Millennium**”-Reactivities of the skin-sensitization test in guinea pig (GPMT) as a function of three parameters: induction doses (MID), challenge doses (SCD), and direct exposures (DED)-, ed, Isfort, R.J., and Lederberg, J., The New York Academy of Sciences, New York (2000) pp.312-314
- 菅野 純：“内分泌攪乱化学物質の生物試験研究法”子宮肥大試験およびハーシュバーガー試験・原理，OECDバリデーションプロトコールの解説，井上達監修，シュプリンガーフェアラーク東京，東京（2000）pp.49-54, pp.227-241
- 松島裕子：“内分泌攪乱化学物質の生物試験研究法”子宮肥大試験およびハーシュバーガー試験・子宮肥大試験，井上達監修，シュプリンガーフェアラーク東京，東京（2000）pp.54-64
- 金子豊蔵：“内分泌攪乱化学物質の生物試験研究法”子宮肥大試験およびハーシュバーガー試験・ハーシュバーガー試験，井上達監修，シュプリンガーフェアラーク東京，東京（2000）pp.69-75
- 高木篤也：“内分泌攪乱化学物質の生物試験研究法”胚幹細胞を用いた検討，井上達監修，シュプリンガーフェアラーク東京，東京（2000）pp.143-149
- 井上和秀：“ATP受容体 医学のあゆみ「7 回膜貫通型受容体研究の新展開」”，佐藤公道，赤池昭紀編，医歯薬出版（2001）pp.38-42
- Sibutani, M.：“**Anesthesia, Artificial Ventilation and Perfusion Fixation**” Chapter 26, in Digital Handbook of Laboratory animals. The rat., G.J. Krinke (ed.) Academic Press, San Diego (2000)

pp.511-521

林 裕造*, 西川秋佳: “毒性病理組織学”, 代謝障害, 日本毒性病理学会編, 東京 (2000) pp. 39-44.

*北里大学

林 裕造*¹, 西川秋佳, 今井田克己*²: “毒性病理組織学”, 肺, 日本毒性病理学会編, 東京 (2000) pp. 117-135.

*¹北里医学

*²名古屋市立大学

真鍋 淳*¹, 松沼尚史*¹, 高橋道人*², 立松正衛*³, 西川秋佳: “毒性病理組織学”, 消化管, 日本毒性病理学会編, 東京 (2000) pp.153-178.

*¹三共株式会社

*²昭和大学

*³愛知がんセンター

渡辺満利*, 西川秋佳: “毒性病理組織学”, 腎臓, 日本毒性病理学会編, 東京 (2000) pp. 246-266.

*持田製薬株式会社

今井 清*, 広瀬雅雄: “毒性病理組織学”, 甲状腺/上皮小体, 日本毒性病理学会編, 東京 (2000) pp. 435-446.

*食品医薬品安全センター

古川文夫: “毒性病理組織学”, 膝 (内分泌), 日本毒性病理学会編, 東京 (2000) pp. 447-453.

豊田和弘, 広瀬雅雄: “内分泌攪乱化学物質の生物試験研究法”, 28日間連続投与試験, 井上 達監修 シュプリンガー・フェアラーク, 東京 (2000) pp. 76-84

三森国敏: “内分泌攪乱化学物質の生物試験研究法”, 甲状腺腫瘍に対する影響, 井上 達監修 シュプリンガー・フェアラーク, 東京 (2000) pp. 205-212.

広瀬雅雄, 西川秋佳: “脂質栄養学シリーズ4 脂質と癌”, 過酸化脂質と抗酸化物質の関与, 日本脂質栄養学会監修, 学会センター関西, 大阪 (2000) pp. 115-129

水沢 博: “第4節 血清中のウイルス試験, バイオ医薬品の品質・安全性評価”, 早川堯夫・山崎修道・延原正弘 編, 株式会社 LIC (Life-Science Information Center), 東京 (2001), pp170 ~ 178

松村外志張, 増井 徹, 宇都木 伸: “ヒト細胞・組織の取り扱いに関する倫理的諸問題, バイオ医薬品の品質・安全性評価”, 早川堯夫・山崎修道・延原正弘 編, 株式会社 LIC (Life-Science Information Center), 東京 (2001), pp489 ~ 504

Ishimaru, K., Ando, M., Takamiya, M., Terahara, N., Yamakawa, T., Shimomura, K. and Tanaka, N.: “*Transgenic Campanula spp. (Bellflower)*” In *Biotechnology in Agriculture and Forestry*, Vol. 48, *Transgenic Crops III*, edited by Bajaj, Y.P.S., Springer-Verlag Berlin Heidelberg (2001) pp. 55-69

Ishimaru, K., Murakami, Y. and Shimomura, K.: “*Transgenic Hyssopus officinalis. (Hyssop)*” In *Biotechnology in Agriculture and Forestry*, Vol. 48, *Transgenic Crops III*, edited by Bajaj, Y.P.S., Springer-Verlag Berlin Heidelberg (2001) pp. 201-208

吉松嘉代: “遺伝子組換え食品—あなたはどう思いますか?—”, 健康とくすりシリーズ, 日本薬学会編, 丸善株式会社, 東京 (2001) pp.1-108